**第一回学習会記録**

敬称略

日時：４月24日（火）　19：00～20：40

場所：広仁会館

司会：氏間（広島大学）

１．開会挨拶：牟田口（広島大学）

２．次回の学習会案内

日時：６月25日（月）　19：00～21：00

担当：西村（広大病院）

内容：　学習会の前半は医療機関から症例紹介（個人情報は伏せて）を行う。具体的に困ったことや、これからどうすればよいか等を参加している専門分野の方に相談する。後半は失明原因の上位疾患の講義（まずは緑内障から？）を予定している。

学習会はホームページにも記載。

・偶数月に開催。

・毎回テーマあり。医療、福祉、教育等。

３．本日の発表機関と発表者

（１）医療法人　しらね眼科　瀬村

（２）広島大学病院眼科ロービジョン外来　奈良井

（３）木村眼科内科病院ロービジョン外来　発表者なし

（４）マツダ株式会社健康推進センター　発表者なし

（５）広島県立広島中央特別支援学校　川口

（６）広島大学大学院教育研究科附属特別支援教育実践センター　氏間

（７）広島市視覚障害者情報センター　周藤

（８）広島市社会福祉協議会　馬屋原

（９）広島市総合リハビリテーションセンター　自立訓練施設　発表者なし

（10）広島ブレイルセンター　組地

（11）視覚障害者の自立をすすめる会＞　佐々木

（12）公益社団法人広島市視覚障害者福祉協会　馬屋原

（13）メガネのタナカチェーン（株）　勝田

（14）地域活動支援センターⅢ型「みんなの働く場　いっぽ」　発表者なし

～質疑応答～

＜広島大学病院眼科ロービジョン外来＞

質問１：広島県内には多くの諸団体があるが、どのようにして確認しているのか。

回答１：副会長（佐々木）によって調べてもらったデータや暮らしの情報誌で確認している。しかし、全ての団体とつながることはできていない。これからこの学習会などの場を通じて、諸団体とつながりを持って行きたいと考えている。なお、現在、視覚障害者連絡会を作成中。

質問２：一回の診察が一名の理由は何か。

回答２：患者さんに集中し、また医師が余裕を持って診察できるようにするため。

質問３：一回の診察がだいたい２時間なのはなぜか。

回答３：患者さんの話を聞き、患者さんと医師の間に人間関係を作るためにはそれぐらいの時間がかかる。時間内に終わらない場合は再診となる。

質問４：今、患者さんは何名いるのか。

回答４：２年半で５０名ぐらい。１年間に一回の予約をされる人が多い。そろそろ診察の枠を増やしていかなければいけないと考えている。

＜広島県立広島中央特別支援学校＞

質問１：かつて中卒（年配）の方が、盲学校の保健理療科に進学したいと考えていたが、保健理療科は来年なくなると聞いたらしい。なくなる予定はないのか。

回答１：今の所はそういう話はない。決定するのは教育委員会なのではっきりしたことは分からない。しかし、入学者の人数は増加しているので残していきたいと考えている。

質問２：聖光学園も養成機関であると聞いたが、あん摩マッサージ指圧等の免許は採れるのか。

回答２：新たな養成はしないようだ。免許を取りたいなら本校へ。

質問３：生徒数が減っていると聞いたがそれはなぜなのか。また、保健理療科等で資格を採った人はどれぐらい働いているのか。

回答３：人数が減っているのは、子どもの数が減っているから。また、地域の通常学校に通う子も多くなったから。就職については、資格を採った人はほぼ全員就職している。マッサージのサービスは視覚障害者の職業になっている。

補足：晴眼者のマッサージ等の養成機関は存在している。

質問４：視覚障害教育相談支援センターはいつ開設されたのか。

回答４：平成14年から開設している。本校の生徒の場合、訪問して指導をすることを行っているが、外部の方には本校に訪問してもらい指導または相談をすることを行っている。

＜広島市視覚障害者情報センター＞

質問：センターだよりの音声にはどういったメディアがあるのか。

回答：センターだよりは点字と墨字しかない。音声は市内の音声ボランティアさんにお任せしている。

＜広島市社会福祉協議会＞

質問１：カラオケの貸出具合はどうか。

回答１：年末年始やイベント（カラオケ大会）などが行われるときに多く貸し出されている。貸し出しは年に10回程度である。

質問２：カラオケはピンディスプレイに出るような感じなのか。

回答２：その通り。点字が表示されるようになっている。また、パソコンに歌詞を白黒反転または拡大させる機能もある。

質問３：社会参加促進事業は何を行っているのか。

回答３：広島市の方を対象に編み物、生け花、点字、ダンスなどの教室を行っている。詳しくは担当者、または講師に聞いてほしい。

質問４：サービスは月に何人ぐらいが利用しているのか。

回答４：全ての人数は今分からない。しかし歩行訓練は月に15人でだいたい30回ぐらい行っている。

＜広島ブレイルセンター＞

質問：プルタブを集めて車いすと交換することは今も継続して行われているのか。実際に他の団体も集めているのか。

回答：プルタブを集めて車いすと交換することは今も行っている。なぜプルタブなのかというと、アルミ缶でも良いのだが、かさばってしまうためプルタブで行っている。また集めたプルタブは自分たちが直接送るのではなく、大阪の団体に渡し、重量管理をしてもらい、車いすの資金分集まったら車いすを送ってもらうようにしている。プルタブを集めることは小学校で行われることも多くなっている。このようにプルタブを集めているところは実際に多くある。